

ISSN 1884-7722

ちひろ美術館・東京  
美術館だより

No.181

2013.5.10







図1 日傘を持つ女の子と赤い帽子の男の子 1970年



図2 けしの花のなかのあかちゃん 1960年代後半



図3 アヒルとクマとあかちゃん 1971年

図4 つば広帽子の少女 1971年



図5 傷ついた子どもたち (部分) 『戦火のなかの子どもたち』 (岩崎書店) より 1973年

図1 降矢奈々 内部被曝 2012年

図2 ベテル・ウフナール (スロバキア) お加嚙 I 2011年



図4 ノエミ・ラーツォヴァー (スロバキア) お散歩天使 2012年

図6 出久根育 物知り太陽 2012年

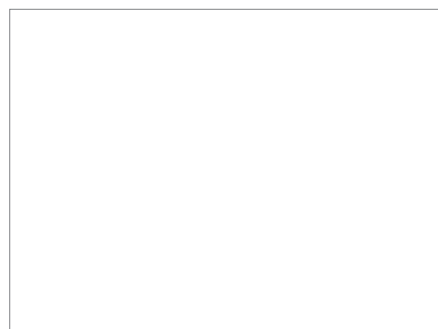


図7 おーなり由子 耳をすまして 2012年

図3 藤本将 夢を叶える 2012年

図5 ミロスラウ・レギトコ (スロバキア) 光の花 2012年

## 「日中国交正常化40周年記念

## 中国の絵本画家展」関連イベント報告

昨年、日本政府によって沖縄県・尖閣諸島（中国名・釣魚島）が国有化されたことを機に、日本と中国、両国関係の悪化が懸念されています。こうしたときだからこそ、日中友好の一助となることを願って、中国の絵本画家展を開催しました。絵本の背景にある中国文化への理解をさらに深めるべく、関連イベントを行いました。

## 中国語で楽しむおはなしの会

3月31日（日）、中国語で楽しむおはなしの会を開催し、40人近くの方が参加しました。展示作品の『十万本の矢』、『小さなこまいぬ』、『チュンチエ 中国のおしょうがつ』の3冊を、一場面ごとに、中国語で読み聞かせた後に、日本語で読み聞かせるスタイルで、ゆっくりと味わいました。

中国語の読み聞かせを担当したのは、現在、日本の大学の大学院に留学している劉

明全さん。中国語の柔らかな響きに耳を傾けると臨場感が増して、絵本の世界に引き込まれていきます。

読み聞かせの後、参加した方々と交流しながら、劉さんに現地のようなすを伺いました。中国の旧正月、春節は、中国の方にとって、とても大切な行事だとか。お祝いのお菓子やお料理などは地域によって異なるそうですが、絵本に描かれている通り、遠く離れて暮らす家族も、この時期には何があっても集まるそうです。



## 中国茶とのコラボレーション

今回の展覧会を機に、中国茶専門店、茶語 [Cha-Yü] とコラボレーション企画に取り組みました。絵本とお茶、分野は異なりますが、中国の文化的な伝統の豊かさや魅力をより多くの方に伝えたいという想いを共有して実現した企画です。茶語の店舗では展覧会特別メニューを、当館の絵本カフェとショップでは茶語の中国茶を、それぞれ提供しました。

4月21日（日）には、中国の国家資格“茶藝師”を持つ中国茶のインストラクター瀬田裕士さんが、当館で、香り高い中国茶の楽しみ方を紹介するイベントも開催しました。（原島恵）



茶葉が美しく開く工芸茶

## 「ちひろの庭」展関連イベント報告

美術館の庭が最も彩り豊かに活気づく春、「ちひろの庭」展にあわせ、ガーデントークや花柄の服のドレスコード特典など、さまざまな関連イベントが開催されました。

自宅の庭でたくさんの花や草木を育て、「花と子どもの画家」ともいわれたちひろにとって、庭は心安らぐ場所であるとともに、作品のイメージの源泉でもありました。ちひろの絵のなかに描かれた草花は約80種、庭に植えられていた植物は40種のほります。



1970年ごろのちひろの家の庭のようす

息子の松本猛は、著書のなかで次のように語っています。

「庭をつくるということは想像する楽しみだろう。種をまくことや球根を植えることは花が咲く日の庭を思い描くわけだし、毎年生長し、変化する植物を念頭に置いて、何年も先の庭をイメージして木を植え

ることもある。母にとって、庭は白い画用紙と同じだったのかもしれない。」

『母ちひろのぬくもり』（講談社+α文庫）より  
ちひろの庭

1970年頃のちひろの家の庭を見ると、玄関のそばにはチューリップやクロッカスが咲く花壇やフジ棚が、テラスにはツルバラのからまる白いバラ棚がありました。植えられた花も、バラ、チューリップ、アジサイ、スイセンなど、ちひろの絵にも繰り返し登場する、親しみやすいものが多く見られます。

ちひろ美術館・東京には、「ちひろの庭」と名づけた小さな庭があります。四季を通じて楽しめるように、植栽専門のスタッフが、週に3回、丹念に手入れをしています。白いバラ棚、テラスのタイル、庭に置かれた四角い飛び石なども、写真や家族の話を参考に、当時のイメージに近いものを選んでいきます。



ちひろ美術館・東京の「ちひろの庭」

この庭に植える品種は、ちひろが育てていた当時と同じものか、できるだけ似た品種をそろえるように配慮していますが、品種改良の進んだ今日では、実は、昭和の時代の素朴な花を集めるのは大変な作業。チューリップひとつをとっても、現代ではさ

まざまな色や八重咲き、変わり咲きなど多種多様で、昔ながらのシンプルなものを入れるのはかえって難しくなっています。このほか、当館敷地内で楽しめる四季折々の植物を、写真入りで紹介した「ちひろ美術館の庭・花ごよみ」マップも作成。マップを手し、熱心に庭を観察する来館者の姿も見られました。

## 「ガーデントーク ちひろの庭の花めぐり」

今回新たな試みとして企画されたのが、会期中4回にわたって実施された「ガーデントーク ちひろの庭の花めぐり」。ギャラリートーク形式で行われたこのイベントでは、ちひろの庭に咲くさまざまな草花を実際に見ながら、庭にまつわるちひろのエピソードや当時の写真などを紹介した後に、今度は展示室で、ちひろが描いた花の代表作などをじっくりと鑑賞しました。

ボタニカルアートとは違い、けっして細部にわたって正確に描き込んでいるわけではないのに、いかにもその花らしい特徴が表現され、花びらの質感までもが感じられるちひろの絵。その秘密は、「ただ花を見ているだけでなく、日々手入れをするなかで花びらに触れて、実感していたからこそ描けたのだと思う」と、担当者は語っていました。（川口恵子）



## ひとこと ふたこと みこと



### 1月29日(火)

学校の授業で「授業をサボりたくなったら、こういう所へ行きなさい」とすすめられたのがここのでした(笑)。『窓ぎわのトットちゃん』の表紙を見てからずっといわさきちひろさんのとりこです。名前が「ちひろ」ということもあって、いつも見るたびに誇らしい気持ちになります。美術や絵にはあまりくわしくなく、うといけれど、ここに来られてよかった。(ちひろ)

### 1月31日(木)

上井草の駅で降りて、なんとなく方向の見当をつけながら夫と二人で歩き、細い道で初めて行きあった少女に「ちひろ美術館へはこちらでいいの?」と聞きました。その子はくるりと振り返り、「道がいりくんでいて言葉では教えにく

いので案内します」と先に立って歩くのです。何度ももういいから、と言っているのに、「私は教えるより案内するほうが好きですから」とか、「何度も知らない人を案内したことがある」と言うのです。結局美術館までついてきたので、無理に誘って、カフェでお茶とケーキをご馳走しました。中学3年生の女の子、はきはきとしてとても可愛らしく、よほどちひろ美術館が好きなのだろうと思いました。不思議な感じでした。孫のような……。私は85歳の女性です。昔からちひろさんのファンです。

### 3月13日(水)

生まれてからずっと石神井に住んでいますが、今日初めて来ました。「強くこれを表現している」とか「これを訴えている」という押

しつけがなく、ただぼーっと眺めていられる不思議な絵だと思いました。春夏秋冬とせつかく四季があるのに、近頃はあまり季節感のない食べ物や服装が目立つように思います。1年に4回、ここへ足を運び、春夏秋冬を感じる生活がしたいなと思いました。(麻衣子)

### 【中国の絵本画家展】

### 3月2日(土)

個性が色とりどりで、軽いタッチのもの、精密でデリケートなもの、淡いもの、濃くて温かいもの、現代風なちょっとシュールなもの、実にさまざま楽しかったです。色、構図、発想、どれもこれも見ごたえがあってすごいですね。熊亮さんの翻訳されていない作品、邦訳を読みたいと思いました。(仙台より C.S.)

## 美術館 日記



### 1月18日(金) ☀

スロバキアから「手から手へ展」作品の第一便が到着。56人分の作品とメッセージが木箱にぎっしり。絵本作家の降矢奈々さんたちが丁寧に梱包してくださったものだ。日本巡回から新たに加わる作品は28日に到着する。手から手へ実行委員会の方々と担当学芸員で作品を点検、いよいよ展示の最終準備に入る。

### 2月1日(金) ☀/☂

ちひろドキュメンタリー映画の、記念すべき初の自主上映会が、都教職員組合杉並支部主催で行なわれる。教科書の表紙絵や絵本を通して、また教室にカレンダーを飾るなどして、子どもたちにちひろの世界を広げてくださった先生方に、どれほど支えられてきたことか。上映前、感謝の気持ちをこめ

てご挨拶する。地域の方々の参加も多く、100人の会場がほぼ満席、熱気に満ちていた。

### 2月28日(木) ☀

「ちひろの庭」「中国の絵本画家展」プレス内覧会を開催。マスコミ、中国大使館、出版関係者等、過去最高の29名の参加者を迎え、展覧会のみどころ解説、関連イベント紹介、そして茶藝師の瀬田裕二さんによる中国茶が振舞われた。この展示が、少しでも両国の文化交流発展の一助になればと願う。

### 3月1日(金) ☀

「ちひろの庭」展会期中、花柄の服をお召しの方には次回展の招待券をプレゼントする特典を企画した。初日から複数名のご利用があり、館内に一層の華やき加わる。

### 3月3日(日) ☁

1月に出前水彩講座を行なった中

野区の小学校から、男子児童が家族5人で来館、受付で声を掛けてくれる。翌週には別の親子も。地域に愛される美術館を目指してやってきた出前講座、目標の「地元小学生の来館率100%」も近い?

### 3月20日(水・祝) ☁

観測史上最速タイで出された今年の開花宣言。ちひろの庭でも、例年は4月上旬の枝垂桜がもう開花。すでに見ごろを迎えたユスラウメ、レンギョウ、桜草、スミレなどとあわせ、まさに春真っ盛り。

### 3月22日(金) ☀

内閣府から、公益財団法人の認定通知書が届く。

### 4月3日(水) ☁

ちひろの記念切手が発売。切手ファンの反響大きく、切手や記念スタンプと同じ図柄の葉書や、掲載書籍まですべてお求めになる方も。

## 窓

### 「世界中の子ども みんなに 平和としあわせを」

竹迫祐子(公財)いわさきちひろ記念事業団事務局長

若い女性の絵本作家から、メールが届きました。現在、議員立法として提案されている「子どもの貧困対策法」をより中身あるものにしようという呼びかけです。3月29日には、法案制定を求める集会が行われましたが、参加した高校生や大学生の困難な生活や学びの機会を求める切実な訴えは、胸に迫りました。

日本の子どもの貧困率(子ども全体の中で何%の子どもが貧困世帯に属しているかという数値)は、14.9%でおよそ7人に1人(2012年5月のユニセフレポート)。これは、調査対象となったOECD(経済協力開

発機構)34カ国中でも9番目。先進諸国20カ国の中では、アメリカ、スペイン、イタリアに次ぐ4番目です。さらに、ひとり親家庭での貧困率は、母子家庭ですと70%と一気に高まり、OECD諸国の中で2番目になります。しかも、子どもの貧困率は、85年段階ですでに10.9%でした。貧困に陥る原因は、親の離婚や解雇、病気、育児放棄等々さまざまですが、その結果、子どもたちの健康、安全が阻害され、学習や文化の享受を困難なものにしていることは明らかです。85年からの貧困率の推移は、貧困の連鎖が、親から子へ、子から次の世代と引

き継がれていく様子を伺わせます。

憲法25条は、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と定めています。健康な生活も、学ぶことや美術を楽しむことも、この権利のもとに保障されています。

「世界中の子ども みんなに 平和としあわせを」。いわさきちひろが残したこの言葉は、まさに、子どもを取り巻くあらゆる問題に繋がります。ちひろ美術館の揺るがぬ思いです。

●次回展示予定 2013年8月7日(水)～10月27日(日)

ちひろ・絵本づくりの現場

生涯にわたって絵本表現の可能性を追求したちひろ。『りゅうのめのなみだ』など1960年代の物語絵本から、平和の願いを込めて描いた最後の絵本『戦火のなかの子どもたち』までの絵本づくりを、当時の編集者の証言も交えて紹介します。

少年『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年



〈企画展〉ずっと長さんとともにー長新太が描いた子どもの本ー

惜しくも2005年に世を去った絵本画家・長新太は、第二次世界大戦後の日本の子どもの本の隆盛期に大きな足跡を残しました。本展では、長新太が1950年代から晩年にいたるまでに描いた児童文学作品や、長新太自身が絵と物語を手がけた作品などを展示します。

長新太『あわてんぼライオン』(徳間書店)より 2002年



ちひろ美術館・東京イベント予定

<http://www.chihiro.jp/>

各イベントの予約・お問合わせは、ちひろ美術館・東京イベント係へ。TEL.03-3995-0612 E-mail chihiro@gol.com

●「手から手へ展」関連イベント 手から手へフォーラム

「手から手へ展」の参加作家が、3.11後の被災地の声をきき、各々の想いについて語り合います。

○日 時：6月8日(土) 17:30～19:00

要申し込み、5月8日(水)受付開始

○パネリスト：降矢奈々・荒井良二・市居みか(絵本作家)、  
遠藤ヒロ子(福島子どもの本研究会代表)

○定 員：80名

○参加費：1000円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●「手から手へ展」関連イベント

ワークショップ「手と手でかこう」

「手から手へ展」にオランダから出品した絵本作家のワウターさん。みんなの機械の絵を手から手へつないで、長～い機械にします。

○日 時：6月22日(土) 11:00～12:30

要申し込み、5月22日(水)受付開始

○講 師：ワウター・ヴァン・レーク(オランダの絵本作家)、通訳：野坂悦子

○対 象：小学生 ○定 員：30名

○参加費：500円(高校生以下は入館料無料)



●「手から手へ展」関連イベント

木坂涼&アーサー・ビナード 詩の朗読会

○日 時：7月17日(水) 17:00～18:30

要申し込み、6月18日(火)受付開始

○講 師：木坂涼(詩人)、アーサー・ビナード(詩人)

○定 員：60名

○参加費：700円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●「手から手へ展」関連イベント ててん茶話会

「手から手へ展」の参加作家が、絵本カフェでみなさんをお待ちしています。詳細はHPでご確認ください。

○日 時：5月26日(日)・6月9日(日)・6月16日(日)・6月23日(日)・6月30日(日)・7月7日(日)・7月14日(日)・7月15日(月祝)・7月27日(土) 各日14:00～16:00

\*参加自由

〈人事〉2013年4月1日より、公益財団法人いわさきちひろ記念事業団の事務局長に竹迫祐子、ちひろ美術館(東京・安曇野)学芸部長に上島史子、ちひろ美術館(東京・安曇野)普及部長に阿部恵、ちひろ美術館(東京・安曇野)総務部長に中平洋子が就任しました。

●松本猛×松本春野 親子対談「絵本『戦火のなかの子どもたち』から『ふくしまからきたこ』へ」

いわさきちひろの息子・松本猛と、ちひろの孫で絵本作家の松本春野が、絵本づくりについて話します。

○日 時：7月13日(土) 14:00～15:30

要申し込み、6月13日(木)受付開始

○講 師：松本猛(ちひろ美術館常任顧問、絵本学会会長)、  
松本春野(絵本作家)

○定 員：60名

○参加費：500円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●ちひろの水彩技法体験 朝顔をかこう

ちひろの水彩技法をわかりやすく解説し、透明水彩で、ちひろが用いた技法を体験する人気ワークショップ。今回は朝顔の絵を描きます。

○日 時：7月21日(日) 11:00～15:00(当日受付、先着70名)

○対 象：5歳～大人

○参加費：300円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●夏休み 針金造形ワークショップ

「特大クワガタを針金でつくろう」

○日 時：7月28日(日) 14:00～16:30

要申し込み、6月28日(金)受付開始

○講 師：橋寛憲(造形作家)

○対 象：6歳以上(小4以下保護者同伴要) ○定 員：15名

○参加費：2000円(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加ができます。

○日 時：6月29日(土) 11:00～11:40

○講 師：服部雅子(西東京もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

○定 員：15組30名 要申し込み、5月29日(水)受付開始

○対 象：0～2歳までの乳幼児と保護者

○参加費：無料(入館料別、高校生以下は入館料無料)

●松本猛ギャラリートーク

6月2日(日) 14:00～ \*参加自由

●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00～ \*参加自由

●えほんのじかん

毎月第2・4土曜日

11:00～ \*参加自由

CONTENTS

〈展示紹介〉ー平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きでー いわさきちひろ展/

〈企画展〉手から手へ展 ー絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ…②③

〈活動報告〉「中国の絵本画家展」関連イベント報告/「ちひろの庭」展関連イベント報告…④

ひとことふたことみこと/美術館日記/窓「世界中のこども みんなに 平和としあわせを」…⑤

美術館だより No.181 発行2013年5月10日

ちひろ美術館・東京